



たけ とり もの がたり 語 てん しょう ほん 天 正 本 (重要文化財)

上原元純自筆

縦 21 cm 横 15.5 cm

天正 20 年写 1 帖

竹の中から生まれたかぐや姫が、皇子達からの求婚を退け、翁の嘆きとともに月の世界に帰って行く話は、おとぎ話の代表作「竹取物語」として広く知られたところである。

九世紀末から十世紀初頭にかけて成立したとされるこの話は、「源氏物語」に「物語の出で来はじめの祖」と記され、平安時代の宮廷内でもすでによく知られた物語であった。

以来、千年以上を経た物語ではあるが、今に伝わる古写本は意外に乏しい。後光厳天皇（一三三八～一三七四）筆とされるわずか九行ばかりのもの伝わるが、書写年の判



明した最古の写本が天理図書館蔵の本書である。その奥書には、天正二十年（一五九二）六月下旬、中院通勝が前伊賀守上原元純に書写させ、自ら校訂した後、文禄五年（一五九六）に松下民部少輔述久本によって再び校正したと記す。これに続く江戸時代の写本や印刷本は数多く伝存しているものの、今私たちが目にする「竹取物語」のほとんどは、印

刷本中最も古い慶長頃（一五九六～一六一五）刊の古活字版本文が用いられている。

物語の内容は成立時からさまざまな影響を受けつつ変化し、現在に至っている。翁の年齢が話の前後で矛盾する点、求婚する五人の皇子が成立当初は三人であった可能性があるなど、文中には多様な変遷の跡が垣間見える。

紫式部によって「物語の祖」と称された際の本文を窺い知ることができないが、周知の物語の中にこの話が辿つてきた変化の断片を見出すのも興味深いものである。

（天理図書館 大西光幸）

展覧会のお知らせ

立教170年教祖御誕生祭記念展 4月14日（土）～27日（金）
午前9時～午後3時半 於 天理図書館展示室
（天理図書館 Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>）